

令和7年度 建築士定期講習テキスト 訂正表

1. 標記テキストにおいて、記載内容に誤りがありましたので、下記のとおり訂正します。

頁	誤	正
v-1 20行	～「業務その他」部門と「家庭」部門において各々 <u>66%</u> 削減と <u>51%</u> 削減の～	～「業務その他」部門と「家庭」部門において各々 <u>51%</u> 削減と <u>66%</u> 削減の～
v-37 12行	①建築確認・検査が <u>不要</u> となる範囲	①建築確認・検査が <u>省略の対象</u> となる範囲
v-37 16行	②建築確認・検査の審査省略の対象となる範囲	② <u>構造等の安全性審査</u> が省略の対象となる範囲
v-43 表6 左から2列目 (3か所)	下 <u>且</u> 板張	下 <u>見</u> 板張
v-45 22行	～、 <u>(5)</u> にて説明した柱の小径に～	～、 <u>(6)</u> にて説明した柱の小径に～
v-48 27行	～、 <u>国を挙げての</u> CLT～	～、 <u>国産材の利用が見込める</u> CLT～
v-49 37行	また一方、 <u>ここ</u> 10年の間に、～	また一方、 <u>法律制定から</u> 10年の間に、～
v-58 15行	～（壁倍率で約15倍相当）～	～（壁倍率で約15倍相当 <u>以上</u> ）～
v-64 13行	～を採用している	～を採用している。 <u>。</u>
v-64 22行	木造部分を、～	<u>構造的には、</u> 木造部分を、～
v-65 33行	～求めた変形の3倍程度になる。	～求めた変形の3倍程度になる <u>といわれている。</u>
v-80 図11	<u>Acction</u>	<u>Action</u>

2. 標記テキストのv-40頁「表4 想定荷重例」において、記載内容に誤りがありましたので、訂正したものを示します。

表4 想定荷重例

		部位の面積当たりの荷重 (N/m ²)	床面積当たりの荷重 (N/m ²)	仕様の構成	荷重の出典など
屋根※ ₁	瓦屋根 (ふき土無)	990	1300	瓦ぶき(640) + 小屋組(200) + 打上げ天井(150)	瓦ぶき、天井：令第84条 小屋組：耐震診断法の参考資料※ ₄
	スレート屋根	740	1000	スレートぶき(440) + 小屋組(200) + さお縁天井(100)	スレートぶき、天井：令第84条 小屋組：耐震診断法の参考資料※ ₄
	金属板ぶき	500	650	鉄板かわら棒ぶき(200) + 小屋組(200) + さお縁天井(100)	耐震診断法の参考資料※ ₄ さお縁天井：令第84条
外壁※ ₂	土塗り壁等	1000	1160	土塗り壁(上塗りとも、厚6.5mm)(850) + 軸組(150)	土塗り壁：耐震診断法の参考資料※ ₄ 軸組：令第84条
	モルタル等	890	1040	モルタル壁(640) + 軸組(150) + せっこうボード(100)	モルタル壁、軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ₄
	サイディング	600	700	サイディング(350) + 軸組(150) + せっこうボード(100)	サイディング：耐震診断法の参考資料※ ₄ 軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ₄
	金属板張	500	580	金属板張(250) + 軸組(150) + せっこうボード(100)	軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ₄
	下見板張	350	410	下見板張り(100) + 軸組(150) + せっこうボード(100)	下見板張り + 軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ₄
※ ₃ 内壁	せっこうボード	—	200	階高を変更する場合には、200 × 階高/2.8として算出する	※ ₄ より床面積あたりの荷重を引用
太陽光発電※ ₁		200	260	屋根全面設置を想定	国土交通省によるヒアリング調査等より想定
断熱材	天井断熱材	100	100	(GW24K 400mm程度)※ ₆	国土交通省によるZEH150棟調査より想定
	壁断熱材	70	90※ _{2,5}	(GW24K 170mm(40) + 胴縁(30)程度)※ ₆	国土交通省によるZEH150棟調査より想定
開口部	トリプルガラス	400	50※ _{2,5}	トリプルガラス(250) + サッシ枠(150)	開口率(外壁に対する開口の比率)9%程度 国土交通省によるZEH150棟調査より想定
床		610	610	さお縁天井(100) + 畳敷(340) + 床ばり(170)	令第84条
積載		600	600	—	令第85条

※₁：軒の出450mm～600mm、屋根勾配5寸想定(×1.3)

※₂：開口率9%、壁高2.8m、外周6m×16.5m想定

※₃：内壁存在割合70%、内壁開口率：60%

※₄：木造住宅の耐震診断と補強方法(日本建築防災協会)

※₅：開口率は開口部面積/外壁面積

※₆：荷重から想定される仕様の例